

委員からの御意見・御提言一覧

	重点施策	委員氏名	御意見・御提言 (関連資料)
1	全体共通	すがわら あやこ 菅原 紋子	議題とは関係がないが、組織キャッチフレーズについて、今後コロナウィルスだけでなく、違う課題や問題がたくさん出てくると思う。そういうことも踏まえて、もっと希望が持てるような前向きなキャッチフレーズにしてほしい。
2	全体共通	かのう とおる 狩野 徹	キャッチフレーズ 「…コロナに打ち勝つ」 はわかるが、この後はウィルスと共存していき、うまく乗り越えることが重要と考える。このキャッチフレーズの場合、目標が「コロナに打ち勝つ」で、前面に出ると、どちらかという自粛方向のことがどうしても出てくるような気がする。 これはあくまでプロセスと考え、 「コロナ感染を正しく理解し、「何か・(検討中)・・・して、」、思いを形に！、地域を元気に！」のような方が良いかと思う。
3	1(1)保健福祉	さくやま まさみ 作山 正美	県民の健康づくりは大きな課題の一つであると思われる。岩手県民には肥満対策、脳卒中をはじめとする生活習慣病対策、健康寿命の延伸対策といった健康づくりに関する種々の対策が必要である。そのためには、保健・医療、スポーツ・運動、栄養などの健康に関わる分野が組み合わさったライフサイクルに対応した計画と実践が望まれる。保健福祉部・文化スポーツ部・商工労働観光部・教育委員会および振興局等が一体となって具体的方策を検討し、市町村を巻き込んで進めていくことが必要かもしれない。例えば、温泉や宿泊施設とスポーツツーリズムや季節に応じた体験型学習などに加えて、数日間宿泊しながら健康検診や運動・栄養・休養の指導が受けられるような事業の展開も考えられる。当初は県民を中心として進めながら、徐々に他の都道府県の方々も受け入れていくようにしていくことが考えられる。また、教育委員会が管轄する小・中・高の児童生徒やPTAに対して、保健福祉部が肥満や生活習慣病指導に関わったり、文化・スポーツ部に関わったりすることなども考えられる。 複数の部署が協力し合うことは簡単ではないが、新型コロナ対策を含めて、グローバルに、そしてダイナミックに政策が展開されることを期待している。
4	1(1)保健福祉	みずもと ちえこ 水本 千恵子	新型コロナウイルス感染症により、地域社会も少なからず影響を受けている。 高齢者の女性から、自粛期間中、家に籠っていたので、地域や友達とコミュニケーションが取れず、淋しく不安だったと聞いた。その方もスマートフォンやタブレットを持っているが、実際、活用できていない。高齢者を対象にスマートフォンなどを活用したコミュニケーションや情報収集のための講習会も必要になってきたのではないかと。
5			新型コロナウイルス感染症により、地域社会も少なからず影響を受けている。 先日、小学校1年生の担任をしている地域住民の方から、今年の1年生は赤ちゃん返りをする児童が多いと聞いた。連日の報道や大人の様子を見たり、いつもと違う雰囲気子ども達にも不安に感じているのかもしれない。そんな話を子育て中の方に話をしたら、自分の子どもも毎日、夜になると泣き出し、戸惑っていたが、自分の子どもだけでないと知って気持ちが楽になったと言われた。友達とのSNSによる交流ではポジティブな話題を交換するが本当の悩みは打ち明けられないとのことだった。 子育て世代が孤立したり孤独にならない仕組みづくりが必要だと思われる。

	重点施策	委員氏名	御意見・御提言 (関連資料)
6	1(1)保健福祉	さとう かずあき 佐藤 一光	<p>新型コロナウイルス蔓延を防ぐための自粛体制が広がっていることを鑑み、以下のような点に特に関心がある。まずは、懇談会に出席してキャッチアップさせてもらえればと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉では待機児童問題と、保育所・幼稚園・こども園に通っていないお子さんの就学前状況の把握と支援 ・親たち、特にシングルマザーへの支援が十分かどうか ・児童手当、児童扶養手当の受給漏れがないかどうか ・もともと孤立しがちであった高齢者への心身のケア、見守り体制 ・低賃金、失業、職業訓練など、低年金、繋がり喪失など格差・貧困の問題
7	1(1)保健福祉	さとう かずあき 佐藤 一光	<p>新型コロナウイルス蔓延を防ぐための自粛体制が広がっていることを鑑み、以下のような点に特に関心がある。まずは、懇談会に出席してキャッチアップさせてもらえればと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の10万円給付をきちんと受給できているかどうか
8	1(1)保健福祉	さとう かずあき 佐藤 一光	<p>新型コロナウイルス蔓延を防ぐための自粛体制が広がっていることを鑑み、以下のような点に特に関心がある。まずは、懇談会に出席してキャッチアップさせてもらえればと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちへの影響、特に勉強の遅れ、運動能力の停滞、心の問題への対処
9	1(1)保健福祉	すがわら あやこ 菅原 紋子	<p>小学生・中学生・高校生のスポーツについて、中総体、高総体、甲子園等スポーツの大会が中止となり、子供たちが活躍しスポーツを通して学べる機会を失っていると感じる。今後子供たちが夢や目標を持ってスポーツを続けられるよう地区大会、県大会だけでも中止ではなく、どうやったら開催できるか考えてほしい。</p>
10	2 環境保全	ふじた よしお 藤田 吉雄	<p>新型コロナウイルスによる地球温暖化への歯止めについて。 新型コロナウイルス感染防止対策のための自粛等、負の面ばかりが報道されるが、経済活動が抑制された結果として、岩手県が目標に掲げるCO2削減につながった面もあると考える。 温暖化施策はすでにあると思うが、今回の新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、新たにあった気づきや追加施策、方針などを教えてほしい。</p>
11	3 地域づくり	くどう りさ 工藤 理沙	<p>移住定住について。八幡平市のスパルタキャンプや葛巻町の山村留学がとても魅力的。地方だからこその強みを活かしている＝ほかの地域では真似できない取り組みが続いている。移住したくても働くところがなければ移住できないのだから、働ける環境を作るのではなく、働き方を作れる人を呼び込む切り口がすごい。どんどん続けてほしい。</p>
12	3 地域づくり	みずもと ちえこ 水本 千恵子	<p>新型コロナウイルス感染症により、地域社会も少なからず影響を受けている。</p> <p>今回のような状況になった時、教育の場や社会でも情報通信技術による対応が多く取られたが、その対応についていけない年代や環境を整っていない方もある。今後、地域コミュニティにも支援が必要ではないか。また、逆に若い世代はコミュニケーション方法が情報通信へと変化してきたが、それだけでは賄われない部分もあり、地域コミュニティが関われる仕組みも継続して必要と思われる。</p>

	重点施策	委員氏名	御意見・御提言 (関連資料)
13	4 防災	あらやしき たけのり 荒屋敷 武則	(資料2、6ページ、項目4について) 「過去の教訓を踏まえた防災対策を進めます」の部分だが、最近よく言われている「想定外のことで」「まさかこんなになるなんて」「ここに40年住んでいるけど」等、よく話している場面を目にする。 過去の教訓が役に立たないことはなく重要なことであることは間違いのない所であるが、もはや想定に捉われない対応がますます重要になって来ていると言える。 資料の表現に違和感を感じた所で、県民の正しい理解になるようにと思った。
14			(資料2、6ページ、項目4 全般について) 「河川改修済延長・・・」「砂防施設・・・」「急傾斜・・・」以下省略、10項目についてだが、「危機管理能力研修会」を除き多くがハード対策になっている。 車輪の両輪のように、ハード対策とソフト対策の両輪で進めることが大切になるので、各種の防災研修に職員はもとより関係機関を含めた防災訓練・防災学習を実施することにより意識の向上が図られ、それが備えることに繋がり、併せて本資料の施策を進めて行けば一層の効果が期待できるものと思った。
15	6 IT・ものづくり	みつい こうへい 三井 康平	広域行政業務全般のICT利活用による効率化を期待する。 スマートもりおかプロジェクト事業を評価し、更なる推進・発展を期待する。 あらゆる行政分野・プロジェクトにおいてICTの利活用を横断的に検討いただくことを期待する。 ○共通的な事項 ・バックオフィス業務(事務・総務・経理)の効率化 ・会議の効率化(Web会議・チャットツール利活用) ・広報の効率化(情報の見える化、SNS利活用) ○個別事項(例) ・福祉: 高齢者のICT利活用(地域や家族とのつながり強化) ・教育: 行政(教育委員会)・学校・家庭の連携強化 GIGAスクール構想の着実な実施 児童生徒や家族からの期待に応える
16	7(1)観光	きただ きみこ 北田 公子	コロナ対策は、これまで遅れを取っていた観光分野の取組を、まずはレベルアップすることが最低限の条件になっていると思っている。観光人口が絞られる中、岩手の強みをスピード感を持って発信できるよう、盛岡広域圏での取組が重要になると思っている。
17	7(1)観光	さとう かずあき 佐藤 一光	新型コロナウイルス蔓延を防ぐための自粛体制が広がっていることを鑑み、以下のような点に特に関心がある。まずは、懇談会に出席してキャッチアップさせてもらえればと思う。 ・観光業、飲食業の行末は気になるが、コロナ前の水準に戻ることはないかもしれないということを前提に、インバウンド消費に関しては抜本的に見直さなければならない時期に来ているかもしれないこと

	重点施策	委員氏名	御意見・御提言 (関連資料)
18	7(2)食産業 (地場産業)	くどう りさ 工藤 理沙	「資料No.3」令和2年度に重点的に取り組む項目・新たに取り組む項目の、地場産業戦略的育成事業に、若手職人の作品展示、商談会とあるが、「若手職人」の範囲や、その範囲の職人に合った「ターゲット」、商談相手はどういった内容なのかお聞きしたい。明確でないと成果につながらないので、対象者からのヒアリングが重要だと思う。 また、コロナで難しいけれど、作り手が想定している販売先を現地へ行って見ることも大事だと思うので(実際肌で感じるのが重要だと思うので)コロナが収束したら、そういった取り組みもお願いしたい。
19			新型コロナウイルスの影響で、どの職種もダメージを受けているが、工芸品や芸術分野も販売機会をほぼ失くし、売り先の無い状況が続いている。 不要不急の物も多いが、暮らしには欠かせない心の豊かさを生むもので、伝統文化を絶やさないための支援策もお願いしたい。
20			「売れる商品づくり」も大切だが、今ある“魅力ある”商品をどう売っていくのかも大事。目新しい物は、特に制作に時間のかかる伝統工芸の世界では難しく、いかに売れる定番を作っていくかが大事。作り手が直接販売していくことはもちろん努力が必要だが、県産品を取り扱う店舗の拡充や、販売者が工房を訪れ商品がどう作られているのかを実際見て感じ、魅力を伝える販売につなげる勉強会も必要かと思う。
21			昨年の伝統的工芸品全国大会は、おかげさまで沢山の方々にとても関心を持って見ていただけて、作り手としてもとても嬉しい反応ばかりだった。特に地元の小学生たちが実演や工芸品を見て、「きれい!」「カッコいい!」など興味深く見ていたのが印象的。だが、ほとんどの学生が、岩手にこういった工芸品があることを知らなかったとのことだったので、今後、地元にある魅力のひとつとして知ってもらう機会を続けていければと思う。 地元にある伝統文化を知することは、将来子供達自身の誇りになることだと思う。また、町の特色として、他県へのPRにもなり移住定住者への促進にも寄与するのではないだろうか。
22	8 農業の振興	すがわら あやこ 菅原 紋子	コロナウイルスによる農業経営への影響について、現在どのくらい影響がでているのか。今現在影響がなくてもこれから影響が出てくると感じているが、今後農業経営に対してどのような取り組みをしていくのか。また、イベントや物産展等、販売する機会やPRする場が減っているが、販路拡大のための方針はどのように考えているか。
23	9 林業の振興	さとう かずあき 佐藤 一光	新型コロナウイルス蔓延を防ぐための自粛体制が広がっていることを鑑み、以下のような点に特に関心がある。まずは、懇談会に出席してキャッチアップさせてもらえればと思う。 ・農林業の持続可能性、特に林業従事者が十分に生活できるだけの体制、間伐にのみ焦点を当てるのではなく、主伐材の利用についても考えるべきであること
24	10 産業人材	みつい こうへい 三井 康平	若者の県内就職率について。 県内就職率を上げることを是とすることに疑問を持っている。

※ いただいたご意見等は、文体を揃えるなど、一部手を加えさせていただいております。